

## ⑤ 近世の日本と世界の学習でのワンポイント活用例 ～マーカー&キャプチャで政策比較～

和洋九段女子中学校高等学校教諭 小口 真人(おぐち まひと)

◆**単元名**：第4章 近世の日本と世界

4 経済の成長と幕政の改革

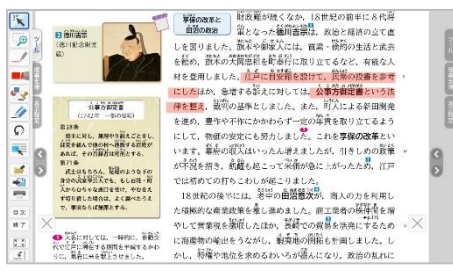
「⑭連判状にまとまる人々」「⑮繰り返される政治改革」(教科書 pp.120-123)

◆**本時の目標**：

幕府による政策とそれを主導した人物(徳川綱吉・徳川吉宗・田沼意次・松平定信)について整理し、相互比較しながら理解を深める。

政策の結果などを、百姓一揆や打ちこわしをはじめとした人々の反発行動から考察する。

《本時の展開例》 \*2時間配当

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入	●前時までの復習を行う。	・経済や産業の発展, 元禄文化について再確認させる。	・必要に応じて, デジタル教科書で資料や動画を提示。
展開 1時間目	●政策と人物をまとめる。 【問】だれの政策が, 最も批判が少なかったのかを考えよう。 ●4人の人物ごとに生徒をグループにして, 内容や情報を共有させる。	・各自で, ワークシートに政策と人物を記入させる。 ・教師のほうで, 生徒が担当する(批判が少ないと考える)政策と人物をあらかじめ決めておく。作業状況を見て提示し, 生徒に考えさせる。 ・根拠となる教科書本文をメモするよう指示する。	・デジタル教科書で紙面を拡大し, 投影。 ・プロジェクタを使用。 
2時間目	●生徒4名を人物ごとに1グループにして, 各自に批判が少なかったと考える理由をグループ内で発表させる。 ●グループの代表者に, クラス内で発表を行わせる。 ●各グループの発表後, クラス全体の意見として, 批判が少なかったと考える政策と人物を一つ選ばせる。	・グループ内での発表後, グループの意見として批判の少なかったと考える政策と人物を一つ選定し, クラス内で発表を行わせる。 ・根拠となる教科書本文などがあつた場合, それを提示させる。	・プロジェクタ, 電子黒板を使用。 ・デジタル教科書の本文にマーカー機能などで線を引き, 画面キャプチャ機能で保存。ホワイトボード機能を使って, キャプチャした画像をまとめて貼り付けて, 相互に比較できるようにする。 
まとめ	●本時のふりかえりをさせる。	・政策は立て続けに行われたが, 重い負担などもあり, 時代を追うごとに民衆の反発行動が目立つようになったという状況を理解する。	・教科書 p.121・③のグラフを提示する。 ・プロジェクタを使用。

## ◆指導にあたって：

○本時では、17世紀から18世紀にかけて行われた幕府による政策と、それを主導した人物について焦点を当て、実施された政策の内容と、その結果や成果について概観する。時代に幅があり、単純に比較できない部分があるものの、生徒には政策のメリット・デメリットの比較検討を通して、この時代の状況をつかみ取ってもらいたいと考えた。

○デジタル教科書は大画面に投影でき、生徒に図版などを提示したり、内容を共有したりする際に有効である。本時では、おもにデジタル教科書の画面キャプチャ機能を用い、内容共有の一助として利用した。

## ◆デジタル教科書活用のねらい：

○クラスでの発表において、マーカーなどの機能および画面キャプチャ機能を用いながら、批判が少ないと考える根拠となった教科書本文などをクラス内で共有・比較できるようにし、本時の課題に対して生徒の興味や関心を高めるようにする。



▲ 実際の授業の様子(左)と、根拠となる文を抽出・比較した画面(右)

## ◆生徒の反応：

○与えられた課題について、自らの考えを構築し、発表を行う授業形態をとっているが、本時のように、あらかじめ生徒が担当する「批判が少なかったと考える政策と人物」を指定して、活動を行わせるという展開は生徒にとって新鮮だったようだ。また、人物ごとにグループにして情報を共有させたことで、課題について深く考えることができたようである。

### 生徒の声

- ・自分の担当(批判が少なかったと考える政策と人物)が元から決まっていたので、いつもより難しく、頭をつかった。4人の人物それぞれに長所と短所があったが、(グループ発表時に)良い意見があったため、(政策と人物を選定するのに)迷った。
- ・さまざまな見方や切り口があるのだなと思った。また、全ての人を満足させるような政治はなかなかできるものではないのだとも思った。

## ◆授業を終えての感想・今後の課題：

○批判が少なかったと考える根拠を、教科書に限らずさまざまな資料から検討させれば、学習に深みが増したのではないと思う。図書館やインターネットなどの利用も視野に入れながら、授業展開を再考したい。

○デジタル教科書の画面キャプチャ機能は、いろいろな場面で活用できそうである。今後も利用の方途を考えていきたい。